

安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第1回)会議概要

- 1 審議会名 安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第1回)
- 2 日 時 平成29年11月29日 午前9時30分から午前11時45分まで
- 3 会 場 安曇野市役所 本庁舎3階 共用会議室305
- 4 出 席 者 板花守夫委員、丸山秀子委員、安田太樹委員、池上文康委員、東本優子委員、丸山早苗委員、三澤郁子委員、丸山太悟委員、高橋正光委員、興智幸委員、齋藤岳雄委員、久保田敏彦委員、中島完二委員、浅川増行委員、中田平男委員、池上洋助委員、丸山昌則委員、鳥羽芳信委員、平林千代委員、小池晃委員、藤松伸二郎委員
- 5 市側出席者 大向部長、大竹課長、丸山課長、平川局長、上野課長補佐、太谷課長補佐、矢花課長補佐、百瀬係長、中村係長、丸山係長、山田係長、高山次長、二村副主幹、赤須主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成29年12月8日

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
 - (1) 開会(大竹課長)
 - (2) あいさつ(大向農林部長)
 - (3) 委員長・副委員長の選任
 - (4) 協議事項
 - ①市農業農村振興計画推進委員について
 - ②平成28年度 進捗状況の点検作業と評価とスケジュール点検作業の進め方スケジュールについて説明
 - ③意見交換
 - (5) 閉会(大竹課長)
- 2 協議の概要
 - (3) 委員長・副委員長の選任
互選により委員長に板花守夫委員、副委員長に丸山秀子委員
 - (4) 協議事項
事務局説明
第1次計画は220件の実施施策がある。この項目についてAからEの評価をしているが、C、D、Eの評価がついたところについて説明をさせていただきたい。
「稼ぐ」の6次産業化の推進 インターネットに関する実施施策のE評価
直売所は加工部も含めてライバル同士であるため、統一された商品の開発は難しいと判断し、E判定の見直しとした。また、再生協議会のHPは立ち上げられているが、その内容は主に農家向けのものとなっている。現在、安曇野の農産物をPRする場として、国内だけでなく海外を想定したHPを立ち上げる準備がされている。その中では、日本語表記以外の対応も検討している。
「部門別振興方針」の果樹 ブドウに関する実施施策のD評価
ブドウの新品種の情報がなく、未着手という状況であるが、今年、県が果樹の振興について研究し、緑系のシャインマスカット、赤系のナガノパープルに続く、ピンク系の新しいものができたと情報を得ているため、再生協議会において栽培の検証を進める計画である。

□「部門別振興方針」 菌茸類に関する実施施策の E 評価

これまで、JA 出資による菌種センターが堀金地区にあったが、生産者が年々減り、昨年閉鎖された。その後、JA 信州上田と連携を図り、原種を取り寄せる等行っている。今後、原種確保について現状の確認をし、振興に繋げられるよう、見直しの E と判断した。

□「部門別振興方針」 わさびに関する E 評価

新品種の開発については市内の種苗会社と連携をして進める予定だったが、先方の都合により中止となり、見直しが必要と判断し E とした。現在、わさび組合がGI取得を目指しており、連携し、安曇野ブランド構築を目指す。

<委員の主な意見>

【ブランド力の強化】

- ・ワイン用ブドウも含めて、銀座 NAGANO 等でもっとPR出来たらよいのではないかと思う。
- ・信州物産展は人気がある。効率よくPRできるイベントに参加すべきである。
- ・GIの取得について、メリットも含め、制度自体あまり理解していない状況ではないか。
- ・どのようにその付加価値をつけて、売っていくか、また、安曇野はどんなものが付加価値になるのかを見極めていく必要がある。

【情報発信について】

- ・情報の発信の方法について色々あるが、今後の農業振興において、とても重要だと感じている。情報発信はスピード感をもって発信してほしい。
- ・新規就農者側から聞かれたら答える、情報を出す、という方法では就農者側が情報不足になると感じている。こんなことをやっているよ、こんな補助があるよ、などの情報を発信することが重要ではないかと感じている。
- ・SNSを利用し、年配者をどのように取り込んでいくかが重要ではないか。
- ・観光客はホテル売店で売っていないものを求めているため、それがどこなら手に入るのか、どんな特徴があるのかなどを発信する必要がある。
- ・情報を正しく共有することが大事ではないか。また、現状分析を正しく行い、タイムリーに情報を取捨選択することが重要ではないか。

【荒廃農地対策について】

- ・ある程度荒廃農地が解消されても、その後、施設のメンテナンスができない状況である。荒廃農地を解消するにあたっては補助金がでるが、その後、その土地を利用する農業者に対しても援助が必要ではないかと感じている。
- ・高齢化に伴い、農業をリタイヤする人が増え、荒廃農地が増えていくのはある程度仕方ないことかと思うが、リタイヤする少し前に引き渡しやすい形で農業から手を引くときは早めに声かけをする仕組みを作れば、計画的に農地を継続することが出来るのではないか。
- ・荒廃農地とならないよう、地域の集落営農組織で農地を守っていくことが必要である。

【生産基盤整備について】

- ・水路等が老朽化している。生産基盤の充実に力を入れるべき。
- ・ほ場整備から期間が経過し、改修が必要である。「田園風景」の源である水田を保全する施策が必要。

【連携について】

- ・個人的には新しい取り組みとして、ホップの栽培をしている。主に商工労政課が窓口となっているが、一緒に

農政課も取り組むべきではないかと思う。市として課を飛び越えて一緒に盛り上げてもらいたいと望んでいる。

・行政の中でも対外的に、正しい情報の提供をお願いしたい。その中で、市内に2つあるJAとの連携や、市や県の連携も重要である。

【お米について】

・米に関する対策についてスピード感が感じられない。

・市は風さやかを推奨していると思うが、これについては、賛否両論である。

【その他】

・大型農家の問題は、機械の消耗が挙げられる。農地面積が増えると機械台数は簡単には増やせないが、1台1台の消耗は激しく、維持管理が困難。国の補助は個人に対するものでなく、集落営農団体などに対するものばかりで個人に対してはほとんどされていないと思っている。

・玉ねぎの乾燥調製施設が建設され、機械化がより進んだと感じてはいるが、まだまだ重労働であると感じている人が多いようだ。乾燥調製施設について、場所が市の南にあるため、運び入れやすい方策が必要である。

・稼ぐためには生産だけでなく、1次加工が必要であると思うが、全ての生産者が1次加工までできるという環境にない。

・後継者の件については、学校での教育も重要になってくると感じている。

以上